

# はるかな尾瀬

## 目次

- 02 特集－尾瀬と私－
- 04 現地情報
  - ・原をわたる風だより
  - ・おこじよだより
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 08 現地情報番外編
- 09 尾瀬のミニ観察〈総集編⑧〉
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2020.12 vol.44  
(公財)尾瀬保護財団



大江湿原の草紅葉 撮影日：令和2年10月11日

## 尾瀬と私

加藤 揚子

五月、雪が解け、ミズバショウが咲く頃に上山してから、早いものでもう半年近くが経ち、下山の日が近づいてきている。今年は新型コロナウイルスの影響もあって、上山が例年よりも遅くなり、上山の日はミズバショウがいたるところに咲いていた。まさしく、尾瀬に来たという思いを強く感じた。尾瀬と言えばミズバショウというイメージが強いが、数年前、ミズバショウの咲く時期に初めて尾瀬沼から尾瀬ヶ原を歩き、咲いているミズバショウの多さに感動した事を思い出した。その時には、尾瀬で生活をする日が来るとは思いつかなかったが、山の鼻ビジターセンターで管理員として働く尾瀬での生活もあとわずかになってしまった。

私が初めて尾瀬を訪れたのは、記憶が定かではないが、もう三十年以上も前の事だと思う。学生時代に山登りの魅力に目覚め、今でも趣味として山に登っているが、その中で尾瀬にも何度か訪れて、尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺を歩き、至仏山や燧ヶ岳にも登ったことはあったが、その時にどんな風景を目にしたか、まして、どんな植物が咲いていたかは、恥ずかしながらもう覚えている。そんな私にとって、この半年は新しい発見と感動の日々であり、勉強の毎日であった。

朝、目覚めて外に出ると、そこはもう尾瀬であり、研究見本園がすぐそばに広がり、至仏山のなだらかな山容が目に入る。咲いていたミズバショウは徐々にその姿を変えていき、また他の様々な植物が姿を見せては入れ替わっていき、毎日同じ場所を歩いても飽きる事はなかった。尾瀬ヶ原の方へ出ていけば、広々とした湿原が広がり、燧ヶ岳が遠くに聳えており、その景色は一日として同じ事はなかった。

特に、七月一日の開山の日を待ち、久々に登った至仏山に関しては、その咲いている植物の多さに感動した。今まで何度か登ったことはあったが、私が思っ



草紅葉と至仏山

いた至仏山とは違っていた。これまでと登った時期が異なっていたことに加え、私が植物に興味を持って登ったこともあり、色々な花が咲いていることに驚いた。丁度、オゼソウやホソバヒナウスユキソウが咲く時期であり、その他にもジヨウシユウアズマギクやハクサンイチゲ、イワイチヨウ等の高山植物が咲き誇り、初めて目にする花も沢山あった。その後、登った別の機会には、タカネナデシコにも出会い、改めて至仏山が花の山である事を感じた。それ以降も何度か足を運んだ至仏山だが、訪れるたびに違う植物が花開いており、咲いている植物を見つけて名前を覚えるのが楽しく、多くの花の名前を覚えることが出来た。また、山ノ鼻からの登山道は森林限界を抜けて振り返ると、お天気が良ければ眼下に広々とした尾瀬ヶ原が広がり、燧ヶ岳が正面に望める。標高が上がれば、遠くに平ヶ岳や上越の山々が見渡せ、登山の疲れも吹き飛ばすような風景を見る事ができ、それも楽しみの一つである。

執筆中の十月の山ノ鼻周辺や尾瀬ヶ原は、紅葉や草紅葉に彩られ、咲いている花は数少なくなっているが、湿原や周りの山々が様々な色で染まっており、花の時期とは違った楽しみがある。研究見本園から見える至仏山も、一日一日と山肌の色が変わっていき、その様子を見るのも楽しいものである。

春先に忙しく飛び回っていたイワツバメがいつの間にか姿を見せなくなり、うるさいくらい鳴いていたカッコウの声が聞こえなくなり、今は二ホンジカの鳴く声が遠くから聞こえてくるようになった。この半年の尾瀬での生活は、季節の移り変わりを眼や肌や耳で感じる日々だった。

沢山の人が訪れる尾瀬。今年は例年に比べると訪れる人は少なかったと思うが、これからも沢山の人がこの尾瀬の自然に触れて欲しいと思う。ここに来なければ感じられない感動があると思う。まずは訪れて尾瀬という所がどんな場所かを知って貰いたい。それが、尾瀬の自然や保護の歴史等を知って貰う一歩となるのだと思う。

尾瀬で生活し、山小屋の人達、ガイドで訪れる人達、ボランティアで訪れる人達、写真を撮りに訪れる人達、そして登山者の人達と出会い、皆がそれぞれの思いで尾瀬に関わっていることを感じた。私は私の思いでこれからも尾瀬に関わって行きたいと思っている。

(尾瀬山の鼻ビジターセンター 令和二年度管理員)



研究見本園のミズバショウ

## 現地情報

# 原をわたる風をより

## 山の鼻ビジターセンターより

### 「コロナ禍の尾瀬」

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ビジターセンターの運営自体を心配していましたが、関係各所一丸となり施策を練り上げた結果、無事、開所することができました。

開所後に手指消毒や検温、マスク着用などにご理解とご協力をいただいた皆様、各方面で尽力いただいた皆様にご



の場をお借りしてお礼申し上げますと共に、来年に向け更なる安心安全をテーマに邁進してまいります。

尾瀬の花たちはというと、皮肉なことに入山が規制されていた5、6月にはミズバショウが例年になくキレイに咲きほこり、ワタスゲも当たり年と言って良いほど白い果穂が目立ちました。

来年は、より多くの方に尾瀬のこの素晴らしい自然を堪能いただけることを祈念しております。

(西澤 政春)

### 「シーズンの尾瀬を振り返り」

今シーズンは尾瀬の登山者も戸惑ったのではないのでしょうか。6月までは自粛で入れず、7月の解除の頃は梅雨



明けが遅れ、雨の日が多く山歩きが大変だったと思います。また8月に入り暑い日が続く一方で、ツキノワグマの出没や目撃が頻発しました。

さて、尾瀬ヶ原の湿原は、ミズバショウが終わりカキツバタ、ワタスゲなど見頃を迎えていましたが、新型コロナウイルスの関係で入山されるハイカーは少なく、山小屋も数軒は今年度の営業を断念したり、営業している山小屋も宿泊者数を少なくするなど、感染防止対策で大変だったと思います。秋になり曇りがちの天候が多い中、尾瀬ヶ原は草紅葉を迎え、10月に入り樹木の紅葉も進みました。今年は台風で樹木の葉が風雨で揉まなかつた分、紅葉が綺麗でした。

10月中旬は、シーズン終了が迫り尾瀬の山小屋も閉設の準備に、また木道

等の工事も降雪前のわずかな時間に追われるよう急ピッチで進められました。山の鼻ビジターセンターも山小屋と同様に閉館のための片付け準備を始めました。今年は新型コロナウイルスの関係で展示品も規模を縮小しましたが、多くの方に入館していただきありがとうございました。来年は多くのハイカーで尾瀬が賑わうことを願い終わります。

(笹原 宗利)

### 「コロナ禍の尾瀬」

今年の山の鼻ビジターセンターは6月に開館、星空観察会や歩荷さんのイベントなどは行わず、観察会やスライドレクチャーも限られた人数での実施となりました。更に今年別の原因で観察会やスライドレクチャーを中止せざるを得ない状況になりました。それは「ツキノワグマ」が山ノ鼻地区に頻出したことによるものです。このような状況の中、人間の生活で優先順位が低くなってしまっている「自然」を伝えていくことへの葛藤を抱きました。自粛期間が明けた後の尾瀬の混雑

具合は、人と自然は深く結びついていると実感できるほどでした。「尾瀬」という自然は人を癒すということを改めて感じた半年間でした。

(萩原 舞)

### 「コロナ禍の尾瀬で働き」

今年は新型コロナウイルスの流行により、登山業界においても大変な混乱があり、尾瀬入山当初はシーズンを通してしっかり働けるのか、とても不安がありました。他山域では山小屋が完全閉鎖し、登山道の整備も出来なく入山禁止になっている所もある中で、今こうして尾



瀬の中でシーズンを通して感染も無く、無事に業務を遂行出来たことに安堵し、そして感謝しております。

春の尾瀬では、訪れる人が少なく静かすぎるミズバショウの咲き誇る湿原に淋しさを覚えました。季節が移り行くうちに訪れる人も増え、錦秋の頃には、歩く度に挨拶を必要とする位に人の姿が戻って来ていました。やはり人の賑わう尾瀬の方が尾瀬らしいなと少し安心しました。

どうか来シーズンは新型コロナウイルスが収まり、いつも通りの沢山の人の賑わう綺麗な尾瀬に戻っている事を願いまして締めとさせていただきます。と思っています。

皆様、今シーズンもありがとうございます。

(坂上 修司)

### 「今シーズンの尾瀬を振り返り」

今年の紅葉は曇りの多い天気の関係もあるのか走り出しが早く、そのあと中々気温が下がらないせいもあり、場所によっては鮮やかな発色とはならず、パンを連想させるようなこんがり

とした色合いでした。いつのまにやら、尾瀬はシーズン終盤を迎えました。思い返すと急ぎ足の季節はせかせかと通り過ぎてしまいました。ついこのあいだまで暑かったと記憶しているのですが…。尾瀬で過ごす半年間なんであっという間ですね。いろいろなことがありましたが、無事にビジターを閉めることができてほっとしています。さて、今年は新型コロナウイルスで騒然とした一年でしたね。それを越えた次の年はいったいどんなことになるのでしょうか。少し不安です。でもきっと尾瀬はあいかわらずどっしりと私たちを迎えてくれるでしょう。来年もまた山の鼻ビジターセンターをよろしく願います。

(石川 知怜)

### 「今シーズンの尾瀬を振り返り」

5月に上山してから、あっという間の半年でした。湿原一面に咲いていたミズバショウが、秋には草紅葉で綺麗に黄金色に染まりました。尾瀬では一年の半分が冬で、残りの半年の間に春夏秋が駆け足で過ぎていくと言われて

いますが、それを実感できました。賑やかに飛んでいたイワツバメが姿を消し、うるさい位鳴いていたカッコウやウグイスの声がいつの間にか聞こえなくなり、可憐に咲いていた様々な植物が姿を変えました。紅葉した木々も葉を落とし、尾瀬は雪のシーズンへと向かって行きました。

半年間、山ノ鼻で生活し、日常の生活では体感出来ない貴重な時間を過ごす事が出来ました。尾瀬という場所が沢山の人の手によって今まで大切に守られてきた事が良く分かりました。この思いを沢山のひと共有出来ればいいなと思っています。

(加藤 揚子)



## 現地情報

# おそびじよだより

## 尾瀬沼ビジターセンターより

尾瀬に入る前の5月、6月頃は、新型コロナウイルスの対応で大変でした。やっと7月に入り開館となりホッとしましたが、3密対策からミニツ

アーなど限られたイベントしか実施できず残念でした。

その中でも思い出に残っているのは、見晴でのナイトウォークです。夕食後、参加者が集まり歩きはじめた時は、厚い雲で夜空は真っ暗でしたが、南の空にひとつ星を見つけ、次第に2つ、3つと星が見え始め、やがて天の川までも見える素晴らしい星空となり、私も参加した皆さんも大喜びでした。

尾瀬の自然の素晴らしさを持ち帰っていただけだと思えます。また来年もこのようなイベントをたくさん実施したいです。

尾瀬のシーズンはとても短く、アツという間に下山となり、寂しい気持ちです。来年は、たくさんのお客様に来



ていただきたいです。ありがとうございました。

(阪路 善彦)

\*\*\*\*\*

今年はコロナ禍の中での尾瀬シーズンとなり、入山前にいろいろな対策を検討しました。ビジターセンターでは、カウンターにビニールシートを張ったり、アルコール消毒液の設置、ベンチの三密対策などを行い、手を触れる展示を極力少なくしたりしました。これらの対策について来館者の皆様にも協力していただいたおかげで、

来館者にも集団生活をしている職員にも心配していた新型コロナウイルス感染者を出さずにシーズンを終えることができました。どうもありがとうございました。来シーズンは新型コロナウイルスも収束し多くの人がまた尾瀬に訪れてくださることを願っています。

(中馬 慎二)

\*\*\*\*\*

「今年は尾瀬に行けるかどうかさえも分からない。」という漠然とした不安からはじまり、ようやく尾瀬に入ってもいつも通りとはいかない厳しい年でした。無事に下山までこぎ着けたことに、内心ほっとしております。遠く



離れていても家族や友人、現場の人々の支えがどんなにありがたかったかを身にしみて感じます。まだ新型コロナウイルスの脅威は完全に消え去ってはいませんが、乗り切ってまた尾瀬で働ける春を楽しみに待っています。今年度も大変お世話になりました。

(川上 藍)

\*\*\*\*\*

今年は開館が7月からであったり、イベントが規模を縮小して行われたり、館内の展示物も一新し、ソーシャルディスタンスをとれるようにしたり、入口に消毒液を置いたり・・・い



つもとは違うことがたくさんあり、来館された皆様や関係者の方には大変ご協力いただきました。ありがとうございました。

あつという間に終わってしまった尾瀬シーズンでしたが、今年はワタスゲが大江湿原で当たり年だったので、美しい景色を長く見る事が出来ました。心残りと言えば、今年もオコジョを見ることができなかつたので、来年への課題としたいと思います。

(大澤 未奈)

\*\*\*\*\*

1年休んでの2回目。ブランクと年齢のこともあり、仲間について行けるか。新型コロナウイルス感染症のせい

で入山が遅れ、開館も7月から。どうなるのか不安だらけでした。それからあつという間の約5ヶ月。1日として同じ日がない日々。ちょっとした変化に驚いたり、新しい発見に感激したり。そしてこの感動を仲間や来館された方々と共有できた喜び。やっぱり来て良かった、と今では感じています。ありがとうございました。

(渡邊 寿敏)

\*\*\*\*\*

日々ビジターセンターで管理員の任務に従事し、巡回で歩いた大江湿原や沼尻などの湿原、白砂峠や燧裏林道、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳などの山々、豊かな尾瀬の自然に接し、夏場はカッコウやウグイスの囀りで目覚め、尾瀬を代表するミズバショウ、ワタスゲ、ニッコウキスゲをはじめ豊かに咲き誇る多くの花々に出会え、ビジターセンターを訪れて頂きミニツアー等のイベントを通して交流させて頂いた皆さん、そしてビジターセンターと一緒に運営に携わった仲間、尾瀬で体験できたことに感謝の一言に尽きます。ありがとうございました。

(齋藤 孝)



6月に入山してからほぼ毎日大江湿原を歩きお花を観察し、季節を感じながら過ごしていたら、もう積雪の季節になっていました。大江湿原で初めてクマを見たときは怖かったけれど、いかに自分が自然の中にいるかを実感しました。ビジターセンターでの業務では、お客様と話している時が好きでつい話し込んでしまうこともありました。お客様から学ぶことも多く、これからも会話を大事にしていきたいです。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

(緒方 亜佑美)

# 尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

## 「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました

シーズン終盤の10月18日（日）、尾瀬の自然に感謝を込めて尾瀬ヶ原での巡回清掃を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小したものの、尾瀬ボランティア9名が参加し、2班体制にわかれて山の鼻ビジターセンターから見晴地区まで清掃を行いました。

前週や前日に予定していた活動は悪天候のため中止しましたが、この日は晴天に恵まれ、秋の深まる尾瀬ヶ原を堪能しながらの活動となりました。



## 「あいおいニッセイ同和損害保険(株)による尾瀬巡回清掃活動」を実施しました

9月26日（土）、当財団の特別協賛寄付者である同社の群馬県内の支店から18名の方が参加し、昨年度に引き続き二度目となる尾瀬ヶ原での清掃活動を実施しました。小雨のぱらつく中でしたが、山ノ鼻から牛首分岐間の清掃を行いました。

新型コロナウイルスによるボランティア活動の休止や天候不良により、予定していた活動をほとんど行うことができなかった今シーズンでした。そのような中でも、精力的に自主ボランティア活動を行ってくださった尾瀬ボランティアの皆様、入山はできずとも尾瀬のことを気に掛けてくださった皆様、ありがとうございました。

来シーズンぜひ尾瀬でお会いしましょう。

## 番外編 「尾瀬山の鼻ビジターセンター閉所作業レポート」

尾瀬山の鼻ビジターセンター(以下「VC」)は10月31日に閉館しましたが、県道尾瀬ヶ原土出線が冬期閉鎖となる11月5日までは山ノ鼻地区の公衆トイレを使用できるようにしておく必要があるため、管理員が駐在しています。

11月5日のVCと公衆トイレの閉鎖作業取材してきましたので、今回はそのときの尾瀬の様子をレポートしたいと思います。

鳩待峠から尾瀬に乗り込んだのは11月4日。その日は運悪く(運良く)大粒の雪が朝早くから降りしきっており、ご覧のように10~20cmの積雪となっていました。

歩き慣れた(と思っていた)鳩待峠を下る木道も、フカフカの新雪に覆われ判別が難しい状況でした。このへんかな?と足を踏み出した先に己の体重を支えるものが無いと、まるで落とし穴に嵌まったときのようなスリルで、生きた心地がしませんでした。

そんなこんなで何とかVCに辿り着き、一夜を明かすと、翌日は気持ちの良い晴天で、陽光を反射した積雪がキラキラと輝いて、素晴らしい光景を見せてくれました。歩く人もほとんどいない白銀の世界は、自らの足跡を残すのもためられるほど儂げで、眺めるだけに留めておきました。

肝心の閉所作業について書くスペースが無くなってしまいましたが、冬の尾瀬は氷点下を大きく下回る気温が続くため、VCの水回りやトイレの給排水設備をしっかりと水抜きしておかなくてはなりません。

また次の春にお世話になりますと言い残して無人の尾瀬を後にしました。



これはまだわかりやすい方



鳩待峠駐車場もこの通り



サングラス必須



# 尾瀬の ミニ観察

総集編 8

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えた、フラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第8回（最終回）をお送りします。

## ◎ ズミ（別名 コリンゴ）

6月に林縁を真っ白な5弁の花で彩るズミ、分類上はリンゴと同じ仲間だという。この花は甘く香っているので、登山者に楽しんでいただける。

花には体長13mmのヒメハナバチの一種と、より小さいズマルコハナバチとが頻繁に訪れ、雄しべや雌しべを抱え込むようにして花粉を集めていた。

山の鼻田代で見かけるハチは、マルハナバチ類が最も多いのだが、ズミの花を訪れた昆虫の80%はこの2種の黒くて目立たないハナバチであった。

【第29回 vol.33 2017.3掲載】



## ◎ アオヤギソウ

7月～8月に長い穂を立てて、多数の花をつける。花は淡緑色で直径15mm前後と目立たないが、花びらの基部に光っている蜜が魅力的なので、ハエやアブの仲間がなめにくる。

6本の雄しべは放射状に伸び、先端の鮮黄色の葯は下向きに裂けて花粉を出している。そこはちょうど、蜜を舐めにくる虫たちの背に花粉がつく絶好の位置である。アオヤギソウの花は小さいが、巧妙な受粉の仕掛けをそなえているのだ。

【第30回 vol.34 2017.6掲載】



## ◎ ヤマトリカブト

漢字で書くと「山烏兜」となり、烏兜とは舞をするときにかぶる鳳凰の頭部を模したかぶり物だ。

外から見える5枚の萼片は青紫色で、写真では兜型の萼片を縦に切り、内部を示した。そこにはカタカナのイの字形（ちょっと無理かな）の蜜腺が2つ納まっていた。後ろの紺色の部分に蜜があり、マルハナバチが吸いに来るのだが人には有毒で、試しになめた勇者は1日ほど唇が腫れていたと言っていた。

切らずに見るなら、萼片の散りかけた花を探すといい。

【第31回 vol.35 2017.11掲載】



## ◎ ミズバショウのように

1994年からの尾瀬総合学術調査団に参加して得た調査結果をもとに「尾瀬のミニ観察」を「はるかな尾瀬」6巻1号(2008)から連載して10年になる。短い記事でわずかな情報を提供したにすぎないが、10年を契機にこのスペースを次の企画に引き継ぐことにした。

最後に、皆様が写真のミズバショウのように大きな実を結ぶよう、尾瀬でのボランティア活動を続けられることを願うとともに、ご愛読いただいた御礼を申し上げます。ありがとうございました。

【第32回 vol.36 2018.4掲載】



# 寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

## ■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。  
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

## ■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

## ■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局(☎027-220-4431)にお問い合わせください。

## 群馬日産自動車株式会社様による寄付受納式が行われました。

10月8日(木)群馬県庁にて、群馬日産自動車(株)様による尾瀬保護財団への寄付受納式が行われました。

今回のご寄付は、前号(43号)の当コーナーにてご紹介させていただきました「尾瀬ごみ持ち帰り運動」横断幕に活動支援企業としてご協賛いただいたものです。

群馬日産自動車様は、大清水～一ノ瀬間での低公害車の営業運行が開始されるに先立って群馬県等が実施した「尾瀬らしい自動車利用社会実験」に参加されており、大清水入山口の利用促進に大きく貢献するなど、尾瀬ならびに自然環境への関心を強く持っていただいております。



### 特別協賛寄付者のご紹介 ※10月31日現在、五十音順、敬称略

**あいおいニッセイ同和損保**  
MS&AD INSURANCE GROUP  
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
通算寄付額 2,396,790円

顧客と時代のニーズを追い求めて…  
**糸井商事(株)**  
糸井商事株式会社  
通算寄付額 4,800,000円

環境貢献企業  
**エコ計画** 50<sup>th</sup> Anniversary  
皆様に育てられて半世紀  
尾瀬の豊かな自然環境の保護に貢献して参ります  
株式会社エコ計画  
通算寄付額 5,000,000円

**群馬トヨペット**  
群馬トヨペット株式会社  
通算寄付額 1,155,330円

# 福島銀行

株式会社福島銀行 通算寄付額 61,558,006円

# meiji

株式会社明治 通算寄付額 2,750,000円



アセットマネジメントOne 株式会社  
通算寄付額 37,768,748円

## 尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部を  
ご寄付いただいております。

平成19年より今回が14回目のご寄付となります。

通算寄付総額 75,537,495円

# 群馬銀行

株式会社群馬銀行 通算寄付額 35,570,763円



## 第四銀行

株式会社第四銀行 通算寄付額 6,792,388円

# 第四北越証券

Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社  
通算寄付額 1,852,385円



すべてを地域のために

# 東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 13,449,860円

### 協賛寄付者のご紹介

※10月31日現在、五十音順、敬称略



クラブツーリズム株式会社  
通算寄付額 750,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会  
通算寄付額 1,000,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合  
通算寄付額 2,000,000円

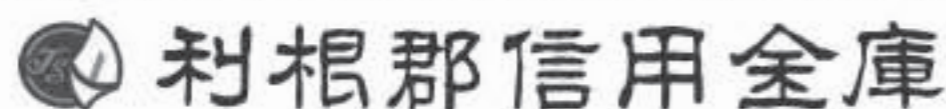


GN群馬日産  
群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

KDDI株式会社  
通算寄付額 336,700円



スマーク伊勢崎  
通算寄付額 500,000円



利根郡信用金庫 通算寄付額 3,745,390円



株式会社とりせん 通算寄付額 2,578,562円



株式会社ニチネン 通算寄付額 1,400,000円



ひかり接骨院  
通算寄付額 468,000円



Minakami Kogen  
Hotel 200 水上高原ホテル200  
(水上高原リゾート株式会社)  
通算寄付額 1,900,000円

### その他の寄付者のご紹介

※令和2年8月1日～令和2年10月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

秋山 淳子、ぐんぎん証券（株）、殿塚 艶子、原 和也

## 表紙の風景

大江湿原の周囲に設置されているシカ罫の巡視を終えた後、大江湿原に出ると赤く染まった草紅葉の絨毯と周辺の紅葉の美しさに思わず足を止めて眺めていました。大江湿原が真っ赤に染まるとそろそろ尾瀬のシーズンも終わりです。尾瀬は、このあと長い冬に入ります。



表紙写真：大江湿原の草紅葉 撮影日：令和2年10月11日

(お詫びと訂正)

前回発行号(2020.8 vol.43)において、ニッコウキスゲについて「一日花」と記載しましたが、「尾瀬のミニ観察(第21回)」にも掲載させていただいたとおり、近年の研究では「ニッコウキスゲは2日間咲く花」とする説が有力です。ここにお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。



## 尾瀬公式Instagram

本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkszwmb3vmrn

## 友の会 コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

### ※加入・更新時期は、年4回(5月・8月・11月・2月)です

※5月1日からの加入・更新をご希望の方は3月31日までに会費の納入をお願いします。

#### 《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

#### 《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌配布：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引  
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：入浴料割引

対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。  
https://www.oze-fnd.or.jp

## 編集後記

今年も猛烈な暑さが続いた夏が終わりを告げたと思ったら、秋らしい風情をあまり感じる暇もなく肌寒い季節となりました。一方、今年初旬から続いている新型コロナウイルス感染症の陽性者数も減る気配がなく、インフルエンザ流行期とも重なる厳冬期のこれからが懸念されるところです。皆様方には「マスクの着用、3密の回避、手洗い・消毒」などの基本的な感染症対策を徹底していただき、来シーズンも元気に尾瀬で会える日を楽しみにしています。(細野)



OZE Mobile 緊急情報・お知らせ・ライブ配信 など  
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter  
尾瀬情報配信中  
尾瀬の情報を随時発信します

@oze\_info



本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。